

（午前10時2分 休憩）

~~~~~

【休憩中】

#### ○糸数昌洋 副議長

ここで、議長選挙立候補者による所信表明会を開催いたします。この所信表明会は議会基本条例第18条第2項の規定により開催するもので、議会を代表し、議会運営の中心的役割を担う議長の選出経過の透明化を図ることを目的といたしております。

昨日の午後2時までには2名の議員から、所信表明申出書が提出されておりますので、所信表明を行っていただきます。

なお、発言は演壇で行っていただきます。発言時間は10分以内となっておりますので、よろしくお願いします。

それでは初めに金城徹議員よりお願いいたします。

#### ○金城徹 議員

ハイサイ、グスーヨー チューウガナビラ(皆さん、こんにちは)。

所信表明をさせていただきます。

最初に、議会改革のさらなる推進に向けて、那覇市議会が議会基本条例を制定して2年余が過ぎました。

昨年6月には、日本経済新聞社の議会改革度調査で、県庁所在地として8位にランクインしたことは、大変記憶に新しいところでございます。

社会的に評価されることは、大変名誉なことです。しかしながら、私たちの議会改革は、まだまだ緒についたばかりであります。

私たちの議会基本条例は、改革を積み重ねて、積み重ねてつくり上げてきた条例ではありません。

まずは議会基本条例を制定して、それに沿って議会改革を進めていこうとのスタートでございました。

ですからこそ、私たちは議会改革に向けての課題がどこにあるかを絶えず検証し、ともに議論を深めていかなければならないと思います。

さて、これまでの取り組みから見えてきた課題があります。議会基本条例の制定の取り組みの中で、各種団体や市民との意見交換会などでの指摘

で、私が大変印象に残っておりますのが、ある方がこのようなお話をしておりました。

「私は、市長や当局に仕事の上でも大変お世話になってきました。しかし、議会にはお世話になったことはありませんよ」と、面と向かって言われたのが、いまだに印象の深いところでございます。

それから、この条例による住民説明会、いわゆる市民とのゆんたく会での意見や指摘、あるいは議員同士の懇談や議員会や会派内の議論の中からの指摘に、次のような課題が浮かんでまいりました。

1点目に、議会活動が市民に伝わらないという指摘。

2点目に、行政に対するチェック機能は十分に果たしているのかという指摘。

それから、政策立案機能は十分ですかという指摘もございました。

これが我々議会側からの課題でございますが、さて、那覇市全体に目を向けてみると、那覇市全体も大きな課題をいくつか抱えております。

まず第1に、那覇市の変化する人口構成への対応が迫られております。2010年と2035年の比較で数字を挙げてご説明しますが、15歳～64歳、これは大体、勤労世代、収入を生み出す世代というふうにみられております。

一方、65歳以上というのは、高齢者と言われている方々ですが、2010年には20万9,803人、2035年には18万7,689人、－10%でございます。

それに引きかえ、65歳以上が2010年には5万6,123人、2035年には8万3,832人ということで、49%増加いたします。

これから何が見えてくるかと言うと、まず第1に税収の減少です。那覇市は今後、財政状況が非常にひっ迫するということが予想されます。

現在の課題としては、国保制度の抱えている赤字、それから大型事業で言えば団地の建て替えだったり、学校校舎の建て替え、市民会館の建て替えなど、大型事業が待っております。

これらの課題に対応するには、民間の経営手法を取り入れるなどの戦略的な行政を市政に取り入れる必要がございます。

さて、財政問題、要するに行財政改革を言ったときに、これまで行政主導の行財政改革に話が進んでおりました。

しかしながら、市民のニーズは増大しますよね。こういうものを作ってほしい、ああいうものを作ってほしい、新たなニーズが出てまいります。そうした中で、果たして行政だけにその全てを任せていいものかどうなのかというのが、我々議会側の課題だと思います。

そういったときに、市民と議会との協働というのが大事なのではないでしょうか。

要するに、どのような事業を残して、どのような事業を縮小するのか、議会が議論をして、行政任せにはいけないということが大事ではないかと思います。

行政サービスというのは、民間ではなかなか賄えないコストのかかる、あるいは費用対効果等を含めて特殊なサービスでございます。そういったものを考えるときに、どの事業を縮小するのかというのは、大変重要な課題となってまいります。

そういったことを市民と議会が協働して、先ほど申し上げました議会改革のその手法が大きな力になるのかなと、私は思っております。それから、行政との協働も必要になってくると思います。

議会基本条例の制定後、議会機能の充実が図られてまいりましたが、例えば議会報告会、市民とのゆんたく会でございますが、そういったものを継続していくことによって、市民のいろいろな声を反映させ、これまで行政報告とされていたのが、我々の議会の意見を取り入れる、あるいはそういったことが、議会と市政との協働になってくるかと思っています。

それから、最後になりますが、議会事務局の機能の充実という意味では、調査法制機能の充実というのは引き続き進めていかなければなりません。

それから、ICTの活用、これは議会活動の機能充実とともにペーパーレスにより環境負荷の軽減と、経費削減につながるものだと思っております。

以上、抱負、あるいは所信を表明しまして、皆様にこの度の議長選挙をぜひよろしくお願い申し上げますという、お話にかえさせていただきます。

ご清聴、誠にありがとうございました。

## ○糸数昌洋 副議長

次に、屋良栄作議員、よろしくお願いします。

## ○屋良栄作 議員

屋良栄作でございます。

立候補にあたりまして、議場におります37人の議員、そして、お亡くなりになりました宮里光雄議員、そして、これまで那覇市の伝統をつくり、名誉ある議会をつくっていただきました先人方に対し、また、32万市民に対し、正直に私の腹藏のない意見を申し述べることをお誓い申し上げたいと存じます。

私の今回の立候補のテーマは、古い慣習からの脱却、そして新しい議会風土をつくるということです。

議会基本条例のおかげで、このような形で所信表明会が開かれる。素晴らしいことだと思います。

これまでの慣習を見るならば、密室で、あるいはパワーポリティクスで決まってきたのを見てまいりましたし、これも1つの政治の一面であります。否定するものではありません。

しかしながら、あのやり方では立候補したくてもできない。言いたくても言えなかった。涙をのんだ方々もいらっしやったと思います。

私が今回、立候補することで無所属ではありますが、勝とうが負けようが、議会改革に一石を投じるものではないかという思いでございます。以下、私の所信を述べてまいります。

私の息子が今高校3年生で、医学部を志しております。中学受験、高校受験を終わったときに、家内は息子から聞かれたんですね。「いつまで勉強をすればいいんですか」と。家内がこう答えていました。「死ぬまで勉強なさい。ましてや医者になるのだったら、人の命を預かるので、死ぬまで勉強なさい」。私は、議会人として死ぬ気で勉強しているかなと、調査しているかなと、活動をしているかなということを自戒させていただきました。

議会人は政策を決めます。政治判断をします。話を変えてもう1つ例を挙げますと、私の身近にはボランティア活動を一生懸命やっている皆さんがいる。交通誘導を毎日やっているおじさんたち

がいる。給料はいくらか、もらってないですね。民生委員の皆さんも、薄給の中でやっていますね。我々の年収はいくらですか。1,000万円はないかもしれないけれども、それに近い額をもらっています。同じようなことをやっていますね。地域の相談役、話を議会に通す、同じようなことをしています。世話役です。なぜこんなに給料が違うんですか。それは我々が大きな市政の方針を決める、政治判断をするということで、その金額の分だけ働けということで任されているのだと思います。

私は、そうであるならば、議会基本条例の前文に書かれているような政策立案能力を高め、政策を発信していく、条例をつくる、真剣にもっともとやらなければならないと考えております。

路上喫煙防止条例を1回つくりました。議会基本条例ができました。今、観光に関する条例をやっております。まだまだ道半ばですけども、もっともっと我々は真剣に取り組んで、ほかの無償でやっているボランティアの皆さんに胸を張って、僕たちはこういうことをやっていますよという議会をつくらなければならないというふうに考えております。

政治決断の重み、勉強、調査、行動、分析。これを実行する議会をつくりたいというふうに思っております。

もう1つは、少数意見、これを大切にしたいと思っております。

私は、最初は3人会派からスタートして、2人会派を経験し、14人会派の幹事長も務めさせていただき、非公式ではありますが二十数名の与党連絡会の幹事長もさせていただきました。大会派のよさ、それから小会派の気楽さ、よさといひましょうか、両方味わわせていただいております。しかしながら、今回は初めてですけども、1人会派、1人ということも経験をさせていただいております。

少数意見の声を大切にというのが我が国のテーマでもあると思っております。

私は少数意見を大切にするという観点があれば、福島第一原発のメルトダウンは防げたのではないかというふうに考えております。日本共産党の国会議員の質問をないがしろにして、丁寧に処理し

なかった永田町、霞が関、その無責任さが国民を危うくさせてしまった。安全な食を食わせないような環境にってしまった。もしかしたら、病気で死ぬ子どもたちが増えるかもしれないような危険にさらしているということにつながったと思っております。

そして、沖縄自体が少数意見であります。私も自民党所属でありましたけれども、いい、悪いは別として、今、自公で300以上の議席を持っている中で、沖縄がどうやって声を反映していくのかというのは、日本全国の少数意見をどう生かしていくのか、聞き入れていくのかという課題と同時に、目の前の議会においても、少数意見に我々がどう向き合っていくのかという課題だというふうに考えております。私は議長に当選させていただいた時には、公平公正にそれに務めたいというふうに考えております。

そして、具体的な改革のプランについて、要約ですけども、述べさせていただきます。

まず、災害対応、どんな災害がくるかわからないです。災害の種類別によって、各議員の対応に至るまでのマニュアルをつくりたいと考えております。それに伴い、議長の権限の強化が必要であるならば、通年議会ということも含めて、検討する必要があるのではないかというふうに考えております。

そして、議会の情報発信の強化を考えております。ホームページのように、待ちの姿勢ではなく、SNSなどを活用してどんどん積極的に発信していく。「那覇市議会だより」のように、私も編集委員長を務めさせていただいておりますけれども、議員自身の手で運用してゆきたいと思っております。

また、議会報告会の充実。私はこの議会基本条例ができる前に、公共交通特別委員長として、宮平さんが副委員長でしたけれども、先駆けて市民議会報告会、フォーラムなるものをさせていただいております。その経験も生かしつつ、さらに充実強化させていきたい。

3つ目、大学などの学術機関との連携強化を図りたいと思っております。行政はやっております、追随ではなくて、二元代表制なのですから我々も

やろうではないですか。大学教授と、アカデミズムと、我々実際にやっている議員と、どんどん議論を交わそうではありませんか。学生たちとも議論を交わそうではありませんか。彼らが将来を担います。青少年、未成年ですけれども、キャリア教育の講師派遣など、議会としての役割を担っていきけるように、協力をするような働きかけをしていきたいと考えております。

投票率は低いですね。市民教育、市民性教育、公民教育、政治参加、これについて私たちも攻めていこうではありませんか。市民の中に入っていこうではありませんか。学生の中に入っていこうではありませんか。

そして、私は市民への議場の開放を進めたいと考えております。特に青少年による議会、周年事業として行われるのではなくて、当たり前のように行いたい。

特に障がい者の皆さんをお呼びして議会を行いたい。耳が聞こえない皆さんもいるかもしれない。目が見えない方もいらっしゃるかもしれない。そういう方をお招きしての議会なども行いたいと考えております。

そして、私は今政策部会長ですが、条例制定、政策条例制定、私自身の手では2つ目でございますけれども、それをやっておりますが、そのマニュアル化をさせていただきたいと考えております。

併せて議会視察等々の報告書の充実を皆さんに求めていきたいと考えております。公共交通特別委員長時代には、委員のご協力をいただきまして、新しい形の報告書のつくり方を模索し提案したと考えております。レベルの高い報告書をつくって、どこに出しても恥ずかしくない報告書をつくって、国会図書館にも収めたい、そのような気持ちで議会を改革していきたいと考えております。

そして、もし、私が議長に当選させていただいたならば、おそらく全国の議長たちと交流することになります。私は沖縄を愛しておりますし、那覇市を愛しておりますし、歴史の風土と、そこに住む皆さんの人間性というものを愛しております。それを全国に向けて、那覇市を代表し沖縄を代表する立場として、発信していきたい。個人としてできるところから発信していきたいというふ

うに考えております。

最後に、むすびになりますけれども、私は新しい市議会をつくるということをお約束させていただきたいと存じます。

そして、私がもし当選できれば、皆様はおそらく忙しくなるだろうということを覚悟させていただきたいというふうに思います。

浅学非才ではございますが、皆様方のご支持と同僚議員の清きご一票を私めに、賜りますように祈念申し上げまして、所信表明にかえさせていただきます。ありがとうございました。

#### ○糸数昌洋 副議長

以上で議長選挙にかかる所信表明会を終了いたします。

ご協力、ありがとうございました。

#### ○糸数昌洋 副議長

以上で、議長選挙に係る所信表明会を終了いたします。ご協力ありがとうございました。

～～～～～～～～～～

（午前10時21分 再開）